



一般質問 ズバリ！ ここが聞きたい

ぴっぷクリニックの医療体制と 地域医療の今後の展望は

村中町長

指定管理者と連携を図り より良い診療体制となるよう努める

□質問・遠藤議員
令和7年4月1日から、ぴっぷクリニックの指定管理者が、社会医療法人「元生会」に変わりますが、期待と心配の声があります。
3点について町長に伺います。
①診療科目、診療曜日、医師数は。
②介護予防にも力を入れている「元生会」は、新しい地域医療の構想をどのように考えているのか。
③「元生会」は『健康寿命を延ばすには病気になる、させない』との話をしています。今までの病院は患者さんを診るのが医師の仕事でしたが、病気の人を治す病院から、病気にさせない病院とは、どのようなことを指すのか。
新しい指定管理者「元生会」との話し合いの進捗と介護予防事業について町長の考えを伺います。
■答弁・村中町長
新たな診療体制の整備を行うため、移行期間が必要であり、4月中旬頃までは診療を休止することも想定しています。
①診療科目は、内科及び外科を予定しており、診療日は、条例で定められているとおり行う予定です。医師の配置は、基本1名体制で、曜日ごとで担当する医師が変わる予定ですが、実際に新たな診療体制がスタートしてから患者様のご意見などもお聞きし、診療科目や

診療時間の変更も視野に、指定管理者とは十分連携を図り、町民の皆様にとってより良い診療体制となるよう努めます。
②と③について、社会医療法人元生会は、救急医療など高度な医療を提供するとともに、令和2年には予防医学による健康づくりをテーマとした生活文化拠点施設「旭川ウェルネスセンター」を開設するなど、「健康・医療・福祉」が三位一体となった総合的医療構想を掲げています。
今後においても、高齢化が進む本町の数十年後を見据え、地域に根付いた診療所運営を行うことが地域医療の貢献につながると考えています。「健康」の考え方にも変化が生じていることから、病気になることから治療するのではなく、病気になるのを未然に防ぐことが健康に健やかに長く生活することが可能になり、本町のまちづくり計画にも掲げる「安心して暮らすことができるまちづくり」とも共通する考え方です。
□遠藤議員 「送迎があるのか、ないのか不安だ」との声があります
が、話し合いはされていますか。
■村中町長 送迎については元生会さんに要請をしています。また対象になる方については、ぴぴた

□遠藤議員 森山病院には健康器具やカフェなどが設置されていますが、ぴっぷクリニックにはどの程度常設されますか。
■村中町長 元生会さんの理想はウェルネスセンターの小型版で、町民の方が訪れて健康づくりをしたり、カフェなどを通して住民の方々と交流できる場になればと思っています。
地域防災体制、施策の抜本的強化に向けた考えは
□遠藤議員 令和7年度の国の防災予算が倍増されます。「防災庁」の設置を2026年度中にと予定されていることから、今までになかった施策計画が立てられています。
関係機関に備品要望を聞き取り、地域の防災力を強化するなどの施策はすでにされていますか。
3点について町長に伺います。
①備蓄品の購入、防災にも使えるトイレカーなどの購入。
②災害女性学の視点を取り入れた災害対応の考え。
③担当課だけではなく庁内での防災会議の開催状況。
（答弁は紙面の都合で省略します）



一般質問 ズバリ！ ここが聞きたい

子どもたちの成長を第一に 考える部活動の地域移行を

北川教育長

子どもたちの気持ちを最優先に 部活動の在り方を検討する

■答弁・北川教育長
令和4年度、スポーツ庁及び文化庁が「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定し、各都道府県に対し休日の部活動の地域連携や移行についての方向性を示しました。これを受けて、北海道教育委員会は、公立中学校等を対象として、休日の部活動から段階的に地域移行することを基本とし、「北海道部活動の地域移行に関する推進計画」を策定しました。

この推進計画に基づき、部活動の在り方を見直し、学校と地域の連携、地域で子どもたちが活動できる環境整備等により体験格差の解消や、学校における働き方改革を推進し、学校教育の質の向上を図ることなどを目指して地域移行に取り組んでいくことになりました。
①について、メリットは様々な人との関わり、モラルや協調性などを学びコミュニケーションを図る能力が身につくことや、努力して得られた成功体験が大きな自信となり、失敗体験の悔しさを糧に成長しようとする向上心や精神力を養うことが期待できます。課題は、生徒数の減少によるチームの成立の難しさ、部活動数の制限や教員の負担増などがあげられます。
②について、メリットはチャレンジしたい活動の選択肢が増えること、専門的な指導が受けられることや学校活動以外での交流が生まれることなど可能性が広がります。
デメリットは、保護者の負担が増えること、指導者の確保が難しいこと、指導者の技術的レベルや子どもたちとの接し方の複雑さなどが考えられます。
③について、子どもたちが将来にわたって継続的にスポーツに親しむ機会を確保していくために、当面は現在の部活動体制を維持し

つつ、休日のみならず平日の地域移行も視野に、指導者が確保できる部活動から順次移行を進めます。
令和6年度は剣道部と野球部、卓球部に部活動指導員を配置し、専門的な指導や課外活動の引率、顧問との連携などにあたっており、バレーボールはクラブチームを創設し、地域おこし協力隊員に指導いただいたとおりです。現在、各少年団の関係者や近隣町の教育委員会と今後の部活動の在り方や連携などについて検討・協議を行っています。
④について、北海道教育委員会が令和6年度に調査した「部活動地域移行に係る市町村の取組状況」による課題は、指導者の確保、実施主体・受け皿団体の確保や体制整備、運営財源の確保、子どもたちの移動手段や近隣町との連携体制などがあげられていました。
これらの課題を解決するには、地域と学校が連携・協働し、受け皿となる団体の発掘や調整、子どもたちや保護者、教員との対話、費用負担の在り方の検討など、様々なプロセスを踏んで取り組むことが重要です。
部活動の在り方を地域全体の課題として取り組むとともに、学校が担ってきた教育的意義を継承・発展させつつ、新たな価値の創出を目指して部活動の改革に努めます。



□質問・大熊議員
部活動の地域移行は教員の働き方改革に加え、子どもたちの選択肢を増やし、専門的な指導を受けられることが目的とされています。
私自身、行きすぎた教員の働き方改革全般については懐疑的ですが、部活動指導の負担軽減は必要な面があると思います。
そこで、4点についてお聞きします。
①比布町における部活動のメリットと課題。
②部活動の地域移行について、子どもにとっての現実的なメリット、デメリット。
③今後、比布町は地域移行を進めていくのか。進める場合は、その理由。
④地域移行する場合の課題と解決方法。

この推進計画に基づき、部活動の在り方を見直し、学校と地域の連携、地域で子どもたちが活動できる環境整備等により体験格差の解消や、学校における働き方改革を推進し、学校教育の質の向上を図ることなどを目指して地域移行に取り組んでいくことになりました。
①について、メリットは様々な人との関わり、モラルや協調性などを学びコミュニケーションを図る能力が身につくことや、努力して得られた成功体験が大きな自信となり、失敗体験の悔しさを糧に成長しようとする向上心や精神力を養うことが期待できます。課題は、生徒数の減少によるチームの成立の難しさ、部活動数の制限や教員の負担増などがあげられます。
②について、メリットはチャレンジしたい活動の選択肢が増えること、専門的な指導が受けられることや学校活動以外での交流が生まれることなど可能性が広がります。
デメリットは、保護者の負担が増えること、指導者の確保が難しいこと、指導者の技術的レベルや子どもたちとの接し方の複雑さなどが考えられます。
③について、子どもたちが将来にわたって継続的にスポーツに親しむ機会を確保していくために、当面は現在の部活動体制を維持し